



新羽中だより

平成 29 年 12 月 20 日 (水)

2017 年 No.8 12 月号

横浜市立 新羽 中学校

☎542-1680 FAX 541-1038

【HP】 <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/nippa/> 【メール】 l2-nippa@edu.city.yokohama.jp

● 年の瀬を迎えて ● 校長 宮本 昌季

「瀬」という言葉は、川の浅くて流れが急な場所を指します。一年の締めくくりのところで、もう一息頑張っ乗り越えなくてはならない課題の待つところといった意味の言葉が「年の瀬」だと思えます。一方に、新年を迎えた際には、「開く」「初め」といった言葉があらこちらに見渡されます。長いようで、あっという間だったこの一年を、皆さんはどのように締めくくりますか。どのような「瀬」が待っているのでしょうか。

ともあれ、大過なく、健康に、この「ひととせ」が送られたのであれば、何より幸せなことではないかと思えます。ことさらに多くを望まず、日一日を大切に、悔いを少なく生活し、感慨深い大晦日をすごせれば、これに過ぎたことはないと考えます。

皆様にとって、来るべき平成 30 年がよりよい一年でありますように祈念いたします。



● 校長の授業見学日誌 2017 part 8 ●

～ ものづくりから身に付ける生活学 ～

【3 年 2 組】 家庭科 藤井 真由美 先生



「うさぎりんごの作り方」を調理室で学習しています。りんごを 8 分の 1 に包丁で切り、芯を取ります。りんごの皮に V 字に切り込みを入れて、りんごのお尻から皮をむきます。お弁当や食後のデザートに添えるりんごうさぎの完成です。調理室後方にあるテーブルに集合し、作業前の説明を受けて、安全に注意して包丁を手にします。作業時間は、10 分間以内を目標に、多くの生徒が上手に包丁を使います。調理室の中は、説明をしっかり受け止めて、落ち着いて作業に取り組む様子がよく見て取れました。でき上がったら、テーブルに付いて楽しそうにりんごを食べました。最後に、振り返りシートを記入して、本日の学習の反省をまとめます。

【2 年 1 組】 技術科 三宅 英和 先生

電気機器の材料と安全性について学習している時間に見学しました。エネルギーが変換されて何に利用されているかを考え、熱、動力、光、その他に大きく分けられることを確かめました。本時は、熱への変換について学習が進み、熱に変換するものは発熱体と呼ばれ、ニッケルクロム合金のような抵抗材料がそれであると教えていただきま



した。そこで、バイメタルという金属を例にして、熱膨張率を利用した機器のことなどに学習が発展します。熱膨張率が異なる2枚の金属板を貼り合わせ、温度の変化によって曲がり方が変化する性質を利用し、温度計や温度調節装置などに利用しているそうです。「バイ」と「メタル」というそれぞれの語義について、「バイ」で始まる単語を発表し合い、「バイ」には「2つの」という意味があることが結論付けられました。楽しく自然体で学習していました。追って、作業学習に入るときが楽しみです。

●創立40周年記念祝賀会 学校長挨拶 ●

平成29年11月25日(土) 新横浜国際ホテルにて
本日の新羽中学校創立40周年記念祝賀会には、新羽町連合町内会長 大谷佐一様をはじめ多くの皆様方のご出席をいただきました。常日頃からの本校教育活動に対するご理解とご協力に併せまして、心から感謝申し上げます。

また、本日に至るまで大変にきめ細かく、また計画的に準備を重ねていただいた創立40周年事業実行委員会委員長 磯部秀夫様を中心とする実行委員会の皆様方に深く敬意を表します。

本校は、昭和53年4月1日、港北区新羽町1434番地の4に開設され、横浜市教育委員会より開校が宣言されました。40年といえれば人に例えれば、不惑の年であります。学校としての教育理念の確立とともに、教職員が一丸となり、「地域とともに9年間で育てる子ども」



を合言葉に、ますますの前進を図る節目の年であると考えます。ちなみに、校長といたしましても、私で10代目を数えるところに来ております。また、創立40周年の意義につきましては、本祝賀会とは別に、10月18日の文化祭開会式の前段にて、ささやかではございますが生徒たちとともに、記念の儀式を執り行いましたことをご報告いたします。

さて、新羽丘陵に並び立つ新羽小学校、新羽中学校、新羽高等学校は、新羽地域の皆様の方の力強いまちづくりとともに着実な成育を進め、新羽地域の立派な文教圏を形づくるに至ったと考えます。何よりも、子どもたちの純朴さと秩序だった学校生活は、地域、家庭の教育力あってのことと強く実感いたします。子どもたちのためにひたすらに願った、充実した豊かな地域行事が、そのことをよく伝えていきます。私たち学校教職員は、通常はこちらから求めてようやくに手にできるであろう地域連携の姿を、すでに地域と一体になった学校運営が用意されている実情に、教育活動における強みを感じなくてはなりません。

今、社会では「働き方改革」と言い、「負担軽減」と言い、過重労働の見直しが叫ばれています。正しいことであり、是正されなくてはいけない事柄の一つです。学校教員の働き方もしかりです。ライフ・ワークバランスの視点を崩すことなく、心身の健全な教員として、子どもたちの教育に全力で邁進してはなりません。

しかし、そのことと教育に不可欠な地域連携とのかか



わりは、決して矛盾させてはいけなないと考えます。地域人材の有効な活用、学校のために、子どもたちのために取り組む多くの地域の皆様方の教育力は、有力な教育資産です。これからも、よりよい地域連携の在り方を皆様方とともに模索し、改善更新していきたいと意を決しております。

例えば、小学校、地域、中学校という3つの円をそれぞれ重ね合わせて描くとき、3つ共に重なるエリアができます。そこが、学校運営に係わる地域の拠点となります。または、地域行事の推進のための協働母胎となります。道1本隔てるだけの小中学校とのつながりを地域が有力に媒介していただけるこの実態は、9年間の教育活動のより緊密な接続を予告するものとしなくてはなりません。小中一貫教育と地域連携の重層こそが、新羽の教育活動の強みだからです。



新羽中学校校歌の出だしに、「緑の森はさわやかに 秀麗富士を仰ぎ見る」とあります。私は、二月頃の晴れた日の新羽丘陵公園から眺める富士山が、大変冴え冴えと澄み切って見える光景を楽しみにしています。卒業式が徐々に近づく年度末、今年度もありがとう、卒業生たちをよろしく頼みますと念じます。これからも、さわやかな新羽の緑とともに、子どもたちが健やかに育まれますように。また、新羽地域の皆様方お一人おひとりのご

健勝と新羽地域のますますのご発展を祈念いたしまして、私の挨拶とさせていただきます。本日は、誠にありがとうございます。

● 中学生「税についての作文」表彰 ●

11月27日(月)午後3時30分から、港北区大豆戸町の神奈川税務署において標記の表彰式が行われました。新羽中学校からは、3年生の吉岡美羽さんと福島颯太さんがともに「神奈川納税貯蓄組合連合会長優良賞」を受賞しました。吉岡美羽さんは「社会保障と税について」、福島颯太さんは「少子高齢化社会における税の在り方について」を題材にして作文にまとめました。

なぜ税金は必要なのか？国税庁のホームページでは、次ように説明されています。『国や都道府県、市区町村では、私たちが健康で文化的な生活を送るために、個人ではできない様々な仕事(病院、警察、役所等の公共サービス)をしています。このような「公共サービス」や「公共施設」を提供するためには、多くの費用が必要になります。その費用をみんなで出し合って負担しているのが「税金」です。私たちは一人では生きていけません。税は、私たちが社会で生活していくための、いわば「会費」といえるでしょう。』あまり身近ではない印象をもつかもしれない税金が、実はなくてはならないものであることに気付かされます。社会科の発展学習といえる取組、「税についての作文」に多くの人たちが積極的にかかわったことと入賞したお二人の成果を称賛します。おめでとうございます。

